

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
70649	比較工芸史研究	2単位 後期 集中	1~2	講義	唐澤 昌宏(非)

■テーマ つくり手の言葉から、作家の工芸（表現の工芸）を考える

■授業の概要

日本における近代工芸の中でも「作家の工芸」、あるいは「表現の工芸」について、近・現代の動向および作家の思考を確認しながら理解を深める。

■到達目標

- ・工芸とは何かを理解
- ・工芸の鑑賞者として、素材・技法に対する感性を身につける
- ・日本の美術界における「表現の工芸」の地位についての理解

■授業計画・方法

1. 日本の工芸を考える① アンケート「工芸とは、あるいは、工芸のイメージ」
2. 日本の工芸を考える② 近代日本の工芸の歴史
3. 日本の工芸を考える③ 伝統と伝承、革新、創造などの言葉から工芸を考える
4. 作家の工芸を考える① 漆芸家・松田権六を例にして-1
5. 作家の工芸を考える② 漆芸家・松田権六を例にして-2
6. つくり手の言葉から工芸を考える①
7. つくり手の言葉から工芸を考える②
8. 作家の工芸を考える③ 陶芸家・富本憲吉を例にして-1
9. 作家の工芸を考える④ 陶芸家・富本憲吉を例にして-2
10. つくり手の言葉から工芸を考える③
11. つくり手の言葉から工芸を考える④
12. 作家の工芸を考える⑤ 陶芸家・深見陶治を例にして
13. 工芸の素材・技法を考える① 陶芸
14. 工芸の素材・技法を考える② ガラス
15. まとめ

※ 定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・工芸に限らず、他の分野、他のつくり手による作品をできるだけ多く観て、広い視野から自分の考えを持つように心がける。
- ・同時代的な他の分野への横のつながりを常に意識して作家の工芸を考えるようにすること。

■成績評価の方法・基準

□方法 講義中の小レポート40%、レポート60%で評価を行う。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 なし

□テキスト 資料は講義中にプリント等を配布する。

□参考文献 講義中に紹介する。